

くさか景子の **ちよっ** よろしいですか！

と

毎月発行 県政情報紙 2010年5月 Vol 36



国の少子化対策すすむ！

こども手当と高校の授業料無償化決まる

日本の少子化は、急速にすすんでいます。これまで、高齢者施策として介護の社会化は行われてきましたが、子育て支援政策は後回しにされてきました。

ここでやっと、子育ての社会化の一步といえましょう。

こども手当は、今年度中学卒業まで1人月13,000円支給されます。しかし、ばらまきと言われないためにも、保育所などの子育て環境整備にも力を入れるべきです。

高校無償化は公立高校で授業料を徴収せず、私立高校生には、都道府県に若干の差はありますが、就学支援金が支払われます。

しかし、課題となっている中でも問題なのが、外国人の取り扱いです。中華学校やドイツ、フランス系など教育課程が確認でき、本国の高校と同様の教育課程の外国人学校の他、インターナショナルスクールなど国際評価機関の認定を受けている学校は支給対象ですが、国交がなく、教育課程が把握できない朝鮮学校が差別されています。朝鮮学校は地方自治体からの各種学校認可や助成金手続きの際、必ずカリキュラムを提出しており、日本のほとんどの大学が朝鮮学校卒業生の受験資格を認めているので、教育課程が把握できないわけありません。明らかに差別であり、すべて国民は等しく教育を受ける機会を与えるという「教育基本法」にはずれてしまう。拉致問題を利用して、差別を助長し、北朝鮮にさらに圧力を加えているのではないのでしょうか。教育を政治介入の道具にするべきでないと思います。あらゆる差別を失くしてこそ、真の少子化対策といえるでしょう



くさか景子のほっとコラム

女性消防団(ファイヤーレディーズ)発足！



消防団は、正規の消防職員とは違い、住民が主体で地域の防災活動を担うもので、茅ヶ崎市には、21分団400人います。このほど市内で初の女性消防団として22分団ができました。名前はファイヤーレディーズで30代~50代の主婦や会社員の女性20人です。主な仕事は、後方支援ですが、平常時は防火広報や応急手当での普及啓発、PRなどを行うとのことです。最近

では、地域の防災リーダーに女性が多くなり、そのリーダーたちのまとめ役も担ってほしいものです。

また、阪神淡路震災時の時に、避難所での女性特有の悩みや相談、あるいは、女性への暴力などの事件、女性であるが故に様々な問題課題がありました。災害時にも、女性消防団が女性の味方になって、活躍してくれることを望みます。